



み冬繼(ふゆつぎ) 春は来たれど 梅の花 君にしあらねば 招(を)く人もなし

2月の万葉集 巻17-3901 大伴家持
美しい冬が過ぎて、(うらかな)春が来たのですが、(僕には、この)ウメの花を、あなた以外に、招いて(見せる)人がいないのです。

感染防止対策の徹底を!

2月に入って、10日ほどが過ぎました。先週の3日は、暦の上で冬と春とを分ける節分、そして2月4日は立春でした。



節分とは、雑節の一つで立春、立夏、立秋、立冬といった各季節の始まりの日の前日を言いますが、江戸時代以降、立春の前日だけが重きを置かれるようになりました。それは、春が一年の始まりとして考えられたからです。豆まきは、「福は内、鬼は外」と



と声を出して炒った大豆をまき、年齢の数だけ食べて厄除けを行います。豆まきの行事は、宇多天皇の時代、鞍馬山から下りてきて都を荒らす鬼に対して、三尺三升の炒り豆で鬼の目をつぶして災厄を逃れたという故事によるものだとされています。

さて、まだまだ厳しい寒さが続いているようですが、ふと、周りに目をやると梅の花が咲き始め、スイセンも咲いていました。日差しも何かしら春らしい陽光に変わり、季節は確実に冬から春へと移ってきています。まさに春はもうすぐそこまできています。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が年明けから急拡大し、先週の3日には全国で10万人を超える感染者が報告され、奈良県でも連日1000人前後の感染状況が続いています。

町内の学校園においても、1月中旬から子どもたちの感染が多数確認され、感染防止の観点から学級閉鎖、学年閉鎖、臨時休業等の措置をさせていただきました。その間、学校においては、オンラインでの授業等、子どもたちへの学習保障もしっかりと取り組んでもらいながら、教育活動を止めない努力もしてもらっています。

今週末からはようやく学級閉鎖もなくなり、通常の教育活動に戻りつつあります。ただ、第5波までに比べ、子どもたちへの感染が多いことから、学校園では、これまでも増して徹底した感染防止対策をとってもらっています。特に空中に飛散したエアロゾルを防ぐ不織布マスクの着用と手指の消毒、3密回避等、校園内では絶対感染させないという思いで対応してもらっています。保護者や地域の皆様にも、これまで以上に感染防止対策をとっていただき、ご自愛いただければと思います。とにかく、1日も早く、日常の生活に戻ることを切に願っています。

「なぜ人は学ぶのか。人生に立ち向かっていく行動力、判断力、思考力を身に付けるためではないか。」

これは建築家の安藤忠雄さんが、ある新聞のコラムで語っていた言葉です。人は何のために学ぶのか。学校で学ぶのは教科の点数を上げることだけが目的ではありません。児童会・生徒会活動や部活動で先輩や後輩と付き合っていく上での人間づくり、あるいは、先生や目上の人に対する言葉遣いなど、生きていく上での基礎的基本的なノウハウを学ぶことも勉強です。

商店街のおじさんは買い物する主婦に呼びかける、「奥さん、今日は安いよ、勉強するから買って行ってよ!」この「勉強」の意味は、「儲けは少なくなるけれど無理して売るよ」という意味です。普段より少し無理をし、努力することを「勉強」といいます。それを怠れば成績が上がらないのは当然です。

宮城教育大学の元学長だった林竹二先生は「学んだことの証は、ただ一つで、何かが変わることである」と述べておられ、「一片の知識が学習の成果であるならば、それは何も学ばないでいたことだ」と言い切っています。

「昨日の自分よりも今日は少し変わった、友だちと言ひ合いもせず落ち着いて受けとめることができた」、「図書館で見つけた本がおもしろかった」、「クロムブックの使い方がわかっておもしろくなった」など、新しい分野に目が向くようになることが勉強です。まずは、新しい自分を発見するために一歩踏み出す勇気をもつことが勉強だと思います。

人は、行動力、判断力、思考力を身に付けるために学ぶ!



今月の一言

『自分が弱虫であり、その弱さは芯の芯まで自分に付きまとっているのだ、という事実を認めることから、他人を見、社会を見、文学を読み、人生を考えることができる』

遠藤 周作



狐狸庵(こりあん)先生という名で親しまれた小説家(1923~1996)。

谷崎潤一郎賞の「沈黙」、野間文学賞の「侍」が有名で、以後、『狐狸庵閑話』(1965)などユーモラスなエッセイ「狐狸庵」シリーズも好評でした。

1981年芸術院会員、85年には日本ペンクラブ第10代会長(~89)、88年文化功労者、95年(平成7)文化勲章受章。

自分の弱さを自分自身、見つめることが、人生を考えるためのスタート地点です。



教育委員会の取組

20年分の感謝を込めて！

1月10日(月)の成人の日に、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和4年広陵町成人式を開催しました。この日は早朝から比較的暖かく、戸外にいてもあまり寒く感じない日で、成人となる皆さんの日頃の精進の良さが表れた日でした。

年明けから、第6波となる新型コロナウイルス感染症が急拡大し始めた中での成人式でしたが、昨年と同様、3密等を避けるための感染予防対策として、午前広陵中学校区、午後真美ヶ丘中学校区区の成人の皆さんを対象の二部制として、来賓の皆様も主催者側も極力出席者を控えた形での成人式となりました。

今年、町内で成人になられたのは399人で、広陵中学校区が195人中158人、真美ヶ丘中学校区が204人中164人が参加していただきました。

オープニングイベントでは、広陵金明太鼓の皆さんが勇壮かつ軽快なリズムとともに、心にしみる「ほむら」という曲を演奏していただき



新成人へのお祝いの気持ちを伝えていただきました。

式の進行は、一部は実行委員の清水さんと松田さん、二部は黒川さんと車谷さんが司会者としてアドリブも入れながら、スムーズかつ厳粛に進めてくれました。

山村町長は式辞の中で、今日の成人の日を節目の日として、これまで育てていただいたご両親、家族、周りの人たちへの感謝の心を伝えてほしいこと。また、大人としての責任と自覚をもった行動をしてほしいこと。そして何よりも皆さんが生まれ育った広陵町に誇りと自信をもって、どこに行っても「ふるさと広陵」への想いをもってほしいとメッセージを贈られました。

私は、お祝いの言葉で、人生は選択の連続であり、安易な道、無難な道、困難な道、どの道を選択するにしても自分の責任であり、どうしても結論が出ないときには敢えて「困難な道」を選択してほしいこと。そして、皆さんがこれからの人生で大事にしてほしい言葉として、ありがとうという「感謝」、おめでとうという「賞讃」、これからだという「希望の心」、なってやるという「強い決意」、まだ待とうという「忍耐の心」、頑張ったという「努力」、これらを脳裏に焼きつけて輝かしい人生を送ってほしいとエールを贈りました。



二十歳の誓いでは、一部が原田さんから、「成人式を迎え、これまでにお世話になった人たちへの感謝の心と人生の大切な時期に新型コロナウイルスとぶつかってしまったけど、何とかそれを乗り越える勇気をもって失敗を恐れず、強い意志をもって様々なことに取り組んで社会に貢献したい。」という誓いを、二部の辻内さんからは「これからの一日一日を大切に生きていくことの決意と家族や地域の

人への感謝の気持ち、そして門出を迎えた私たちは一人一人の思い描く色の大きな花を咲かすその日まで焦らずに着実に日々の歩みを進めていくことを誓います。」という熱い想いを表明していただきました。



その後、成人の皆さんは、それぞれの中学校における卒業アルバムを基にした思い出場面のスライドショーやビデオレターとして中学校の恩師のビデオメッセージに懐かしさとともに成人となった喜びをかみしめていました。

今年の成人式も、新型コロナウイルス感染症の予防を徹底した形の式でしたが、静かで厳粛な雰囲気が漂う式となり、主催者として、何事もなく成人の日を迎えた皆さんに人生の節目をお祝いできたのが何よりもうれしいことでした。

広陵産のイチゴを提供！

広陵町では、これまで学校の給食を中心に、学校や家庭、地域とのつながりの中で様々な食育に取り組んでいます。

特に、地産地消として地元の食文化や奈良県産の食材を取り入れた献立など、栄養バランスに配慮した給食による食育と学校が地域や家庭とつながる中で地域の食材を知り、バランスのよい食事を自分で調理できる実践力を育てることを目的とした食育活動を進めています。

そのような中、2月1日から中旬にかけて、小学校給食に広陵産のイチゴ(古都華)を一般社団法人広陵町産業総合振興機構「なりわい」を通して提供してもらっています。デザートとして1サイズのイチゴ1つの提供ですが、地元でとれたおいしいイチゴを味わってもらえればと思います。



車いすを寄贈していただきました！

奈良県共同募金会から広陵町社会福祉協議会に、共同募金運動75周年記念事業として福祉教育に役立ててほしいとのことで、助成金の交付がありました。町社会福祉協議会では、その意向を受けて、町内5校の小学校にそれぞれ車いす1台を寄贈していただきました。

2月7日にその贈呈式があり、町社会福祉協議会の会長である山村町長から町校長会代表の中山校長(北小学校長)に車いすを贈呈していただきました。

各学校では、これまで福祉教育として車いす体験をする中で、身体の不自由な方の思いに寄り添ったた心情を育て、障がいを持った方々への言葉がけや手助けなどの実践力を培う取り組みをしています。車いすの寄贈により、これまで以上の福祉教育に役立ててもらえればと思います。

